

「緑内障について」

人間は五感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）から様々な情報を得ています。特に視覚は全体の約 80%もの多くの情報を目から集め、脳に伝えています。緑内障はその視覚にダメージをあたえます。

〈どんな病気？症状は？〉

眼球の中の眼と脳をつなぐ神経が徐々に弱っていき、ものの見える範囲が狭くなり、部分的に欠け、視力が低下する病気です。多くの場合は初期の段階で自覚症状はほとんどありません。見えづらいことに気がついた時にはすでに進行していることもあります。

普段は両眼でもものを見ているので、片眼が病気になっていても気づかないことがあります。日本人の視覚障害の原因疾患第 1 位が緑内障で、40 才以上の日本人の 20 人に 1 人が緑内障というデータがあります。

〈原因は？〉

原因については詳しくはわかっていません。

加齢、肉親に緑内障の方がいる、強い近視、血流循環が悪いなどが病気発症の危険因子と考えられています。

〈どんな検査をするの？〉

自覚症状に乏しいため、少なくとも年 1 回は直接眼科受診されるか、健康診断や人間ドックなどを積極的に利用し一般的な検査を受け、緑内障の疑いがあった場合は眼科にてさらに詳しい検査を行うこともお勧めです。

眼科での検査には視力、眼圧、視野、画像検査などがあります。画像検査については検査機械もかなり進歩していて早期診断に有用です。

〈治療は？〉

緑内障は一生付き合う病気で、治療も継続が必要です。

ほとんどの場合点眼薬による治療を行います。1 種類で効果が不十分であれば、他の種類の点眼薬や飲み薬を追加し、場合によっては手術を行うこともあります。

大切なのは、定期検査、薬の治療を忘れないこと、あきらめずに治療を続けることが大事です。

最後に、他の病気でも同じですが症状が悪化する前に早期発見・早期治療をすることが大切です。